平成19年度 京都府立海洋高等学校　学校経営計画（実施段階）

平成20年3月21日

学校経営方針（中期経営目標）	昨年の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
1 学校評価と教職員評価の定着による教職員の資質の向上と校内組織運営の充実 2 水産・海洋の将来のスペシャリストの育成 3 生徒指導の充実と授業規律の確立 4 部活動の活性化	成　果 1 合同部会等、分掌間の連携や全教職員の協力により、生徒指導及び授業規律に関して共通認識を持ち、大きく改善を図ることができた。その結果、学校祭等学校行事において大きな成果を残すことができた。 2 生徒募集に関しては、昨年度の取組を更に充実させ、また、中学校の学年会や塾における説明会等も意欲的に取り入れ、3年連続で一定の成果を上げることができた。 3 次年度からの特別支援教育実施に先駆け、年度当初より「すてっぷあっぷるうむ」を開設し、基礎学力の定着を図り、2学期に校内支援組織「特別支援教育推進会議」を立ち上げ、対象生徒の対応について検討した。 4 定期考査を起案することにより、不適切な問題やミスを未然に防止することができただけでなく、問作に対する厳しい姿勢を意識させることができた。 課　題 1 生徒指導に関しては、ゼロトレランスの考え方で生徒指導にあたり、規律ある学校生活の充実に努める。下宿の指導は下宿管理者との連携を強化し、一体となって指導に取り組む必要がある。 2 生徒募集について、中学生により魅力ある情報を発信するために、従来の企画を抜本的に見直し、多角的に再構築する必要がある。 3 老朽化や海水による腐食等による昨年度のトラブルを踏まえ、安心・安全の学校生活の観点から施設・設備の点検を継続していく必要がある。 4 学科改編の趣旨に沿った、各学科の充実（特に海洋科学科の実習のあり方・評価等）には、今後の指導の余地を残した。	1 危機意識に基づいた安心・安全の学校生活の確立 2 学力向上フロンティア校支援事業に係るプロフェッショナル・アイズ（職業人の視点）の育成 3 きめ細かな指導の徹底と希望進路の実現 4 学科改編の趣旨を徹底した各学科の充実と活性化 5 効果的な運営を目指した各分掌間の有機的な連携の強化 6 特別支援教育の推進 7 「授業規律の確立 ・生徒指導の徹底 ・人権教育の充実 ・部活動の活性化」に向けての具体的な方策の実施

〔評価の方法〕評価は具体的方策の項目ごとにA～Dの4段階で表記する。
A：十分達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：ほとんど達成できなかった
〔成果と課題の記入方法〕　分掌・教科全体で記入。ただし、各分掌・各教科の実情により重点目標ごとに記入してもよい。

評価領域	重点目標（取組の重点課題	具体的方策	評価			成果と課題
組織運営	学校経営計画の定着、目標の具現化	① 学校経営計画の進捗状況の点検を行うとともに、前年度の課題の達成状況を確認する。 ② 中間評価、総括評価を行う。学校評議員による授業参観を実施し、年度末には評価結果の公表とともに意見を求める。	B A	B	B	① 保護者アンケート回収率は50%であり、次年度一層の工夫が必要 ② 学校評議員の授業参観を実施、今後の定着、意見の反映が課題
	各種行事・会議の円滑な運営 魅力ある学校づくりの推進	① 学力向上フロンティア事業企画を推進する。	A			① フロンティア事業では多くの成果があがり、次年度の継続が望まれる。
総務企画部	小・中学校との連携を強化し、志願者数の確保に努める。	① 400人以上の中学生を海洋高校の体験に招く。 ② 推薦・一般をあわせた出願者数を140人以上とする。	C D	C	C	① 300数十名の訪問のみ ② 112名にとどまる。
	広報活動の活性化を図る。	① HPに携帯向けサイトを作成するとともに、デザインを刷新し、月4回以上更新する。 ② PTA及び中学生保護者向けメールによる情報配信を定着させ登録者数をPTA100人、中学生保護者30人以上を目指し、PTA向け30回／年、保護者向け10回／年、以上配信す ③ 海洋だよりを月1回以上、地域かわら版を年8回以上それぞれ発行する。 ④ 1年生近況紹介、先輩活躍紹介（30人分以上）、先輩からのメッセージ、カレンダー（年8回以上）を発行する。	D D A D	C		① 更新回数23回 ② 配信回数10回（登録者数PTA59、中学生6人） ③ 海洋だより月1回 地域かわら版8回 ④ 1年生近況紹介進行中、メッセージ、カレンダー順調
	専門教育の充実と成果の発信に努める。	① 教育長表彰者50人以上、日本海南部水研最優秀賞を獲得する。 ② 学習・研究成果発表で、6月、9月、1月にそれぞれ各学科・コースから1項目以上発表を実施する。	B B	B		① 教育長表彰42人 ② 日本海南部水研優秀賞 ③ 3回実施
	（PTA） PTA活動に多くの会員に関与してもらえるように努める。	① 各委員会の組織整備を軸に責任、分担の明確化、各委員会意識の向上を図る。参加率5割以上を目指す。 ② 年間を通じてさまざまなニーズに応えることのできる多彩な行事を企画することで多くの会員にPTA活動に参加してもらえるよう努力する。参加人数20人以上を目指す。	C B	C		① 特に地区委員会・保健委員会の参加率が低い。活動の在り方等検討の余地がある。 ② 各行事の参加人数は、昨年に比べ微増である。
	（人権教育） 人権教育の充実を図る。	① 知識理解にとどまらず意識を高める教職員研修を年2回以上実施する。	B	B		① 教員対象の研修会2回 ② 生徒と共に聴く講演会2回、計4回実施内容については十分といえないものもあり。
教務部	原級留置・中途退学の防止を図る。	① 学年部と教科との連携を図り、生徒の状況把握と適切な指導を行う。（学年部との合同部会：学期3回以上、教科担当者会議：学期2回以上） ② 不認定科目の減少と欠課時数超過による不認定を出さない。（不認定科目総数35以下、欠課時数超過科目0） ③ 学年部及び教科と連携し、学力補充を行う。	C B B	C	B	① 学年部と教科との連携を図り指導を行ったが、合同部会及び教科担当者会議の実施回数は目標に至っていない。 ② 不認定科目は昨年の半減となり、成果があった。 ③ 100%実施
	授業規律の確立を図る。	① 授業規律報告用紙の有効活用と事後指導の徹底を図る。（職員会議等で授業規律報告用紙の内容の共有化を図り、指導法の共通認識を図る。） ② 欠席の多い生徒に対し、学年部と教科及び保護者と連携し、指導を行う。（保護者召喚100%実施）	A A	A		① 授業規律報告用紙の活用ならびに事後指導を実施できた。さらに報告用紙の有効活用を図る。 ② 学年部と連携し実施
	教科指導力の向上を図る。	① 研究授業週間を設定し、授業公開・研究授業を実施し、指導力の向上を図る。 ② 授業規律の確立に向けた授業改善を図る。	A B	B		① 研究授業の実施科目は2つであった。授業自己チェックシートを作成し、指導力の向上を図った。しかし、研究授業の参加者は増加したが、全般的に参加者を増やす手だてが必要である。
生徒指導部	授業規律報告用紙の活用 (十分な理解と活用)	授業だけでなく、あらゆる場面で全教職員が指導を入れる。指導に従えない生徒には報告用紙の存在を告げ、その後提出する。この流れをしっかり全教職員が認識する。	C	C	B	① 一定の授業に成果が見られるが、規律報告については、一層徹底を図る必要がある。
	服装・頭髪指導の徹底 (全教職員で、直るまでやりきる指導)	式典とテスト中に全校で点検を行い、修正する日の約束を取り付け、生徒指導部学年担当者が修正するまで徹底的に指導する。	B	B		① 服装指導については、学校全体のレベルが上がっている。
	クラブ活動の活性化 (同好会をクラブに昇格させる。)	人数や活動内容を充実させ、年間通じてクラブ活動を行い、同好会をクラブに昇格させる。同好会をクラブに昇格させる。	B	B		① サッカー及びカッター同好会が盛んに活動し、部として昇格できる状態になった。
進路指導部	学年部と連携し指導の徹底を図り、希望に応じた就職内定を得る。 ①就職1次内定率を80%以上 ②進路意識調査で80%以上の満足度を得る。	① 現状における主な進路先との信頼関係を強めるとともに、学科と連携し新規開拓にも努める。（会社訪問50社） ② 就職補習（学校紹介・公務員講座）、面接練習（8回）等を適切に運用する。 ③ 公務員試験対策を日常的に実施する。（補習・模試）	B B B	C	B	① 企業訪問44社 ② 就職補習講座通年できず 面接練習8回以上／生徒一人当たり ③ 公務員合格(自衛隊3件) 公務員補習講座通年できず
	個の状況や適性に応じた進学先を選択させ、進学先に応じた向学心を育成する。 ①進学1次合格率80%以上 ②外部試験の偏差値向上率5%以上	① 高大連携を視野に入れた大学訪問を実施（15大学）する。 ② 進路補習等の参加率を向上させる。(80%) ③ 大学別（個別）指導体制を各部と連携して徹底し、その成果を分析する。	A C B	C		① 大学等訪問19大学等 ② 進学補習参加率74% ③ 専門学科教員による大学別新指導体制導入
	学年に応じた進路意識を養成するとともに、学力の把握に努める。 ①未定者数を3年連続5名以内にとどめる。 ②進路意識調査の意識改善率50%以上 （1年目離職者（退学）率10%未満）	① 進路ﾎｰﾑﾙｰﾑや学年一斉の外部模試等を計画的に実施する。LHR（1年：8回、2年：9回、3年：6回）、模試（1・2年：4回、3年：1回） ② 進路指導部による個人面談を実施する。（3年：6月に全員、2年2月に全員） ③ 合同部会等を開催し、共通認識を図る。学年（1年5回、2年7回、3年7回）、補習担当者5回。	A A C	B		① 進路HR:1年（8/8回）、2年（12/12回）、3年（7/6回） ② 進路面談（3年生：全員、2年生：全員） ③ 3学年との合同部会及び補習担当者との会議は予定通り実施
保健部	「早寝、早起き、朝ごはん」推進運動を展開する。	保健だより等に継続的に標語を掲載し、意識の定着を図り、アンケート調査による朝食の摂食率を10%上げる。	C	B	B	① 摂食率10%アップは全校で達成できなかったが、学年により達成でき、年間を通じて活動が展開できた。
	生徒状況の把握と関係分掌との連携を強化する。	スクールカウンセラー（SC)の有効活用を図り、SCと学年部の合同部会を年3回開催する。	D	D		① SCの勤務日の関係もあり合同部会は実施できなかった。
	特別支援教育を推進する。	1学年部、教務部と連携して、「すてっぷあっぷるーむ」を年25 回開催する。	B	B		① 年間を通じて25回開催でき、英語につても取り組めた。

1学年部	生徒指導の確立	①　確固たる生活指導の早期確立 ②　学年･クラス経営の充実 ③　充実感溢れる、やる気のある生徒の育成	B A A	A	B	①　概ね計画とおりに1年を終えることができた。課題はあるが、学年全体の雰囲気が悪くなることなく、全体的に生徒は生き生きとした学校生活を送った。
	進路指導の確立	①　1学期当初からの早期進路指導の開始 ②　2学期中間考査までに希望コースを決定 ③　進路部と連携し、指導資料等を充実	A C C	C		②　学科･コース選択は計画通り進まなかった。最終的にはほぼ全員が十分な話し合いの結果、自らの学科･コースを決定することができたが、後悔せぬよう、慎重に決定したため、やや時間がかかり過ぎた感がある。
	各生徒の進路目標を決定させる。	①　進路目標決定率７０％以上を目指し、進路学習の効果的な実施を図り、その内容の定着を学年団で徹底する。 ②　学年で進路月間を設定し、継続的に進路について考える機会を設ける（6月、11月）	A B	B		①　進路目標は、８０％以上の生徒が進路について定まった考え方を持つことができ、科学科希望生徒の進学補習全員参加を定着させつつある。 ②　進路学習は、例年に比して前倒しで行ってきた。5月1回、6月2回、9月1回、10月1回11月2回、2月1回と、進路部のみならず総務企画部･学年でも取り組んだ。
2学年部	中だるみを防止し、進路目標実現に向け生徒の実力を伸長させる。	①　仮進級生徒0名を目指し、日々の授業を大切にすることを継的に指導する。 ②　進学補習出席率８０％以上を目指し、補習担当者、進路指導部と連携を保ちながら、進学補習の参加を促す。 ③　部活動加入率６０％以上を目指し、各学期部活への加入を促す。 ④　専門科の先生と連携を図り、全員が資格取得する様に指導する。	C D B	C	C	①　現在、仮進級確定生徒1名確定 ②　教科にもよるが、出席率は現在約６０％ ③　概ね達成できている。 ④　現在、継続的に指導中、年度末評価
	分掌内及び分掌間の連携を図る。	①　毎週、学年会を実施する。 ②　学年で、適宜月間目標を設定し、その徹底を図るため分掌間会議の実施や、職員朝礼での連絡を行う。	B C	C		①　計画とおり実施できている。 ②　適宜実施できている。
3学年部	進路実現を目指し、進路指導部等と連携しながら指導を強化する。	①　進路HRを毎月1回行う。 ③　進路補習への参加を積極的に勧める。	B C	B	C	①　進路指導部を中心に、学校一丸となって生徒に対する進路指導を行うことができた。進路補習と他の行事との交通整理を行い、更なる参加率向上が必要である。
	個々の生徒に規範意識を育て、集団としての規律を確保する。	①　朝読書の際、服装･頭髪の指導を毎回行う。 ②　「自己チェックシート」を学期に1回実施し、HR指導を徹底する。	B D	C		①　服装･頭髪･化粧などの指導において、指導の余地を残した。
	学科･コースの学習を意欲的に進めるため、資格取得を促す。	①　全員の生徒に1個以上の資格取得に取り組ませる。 ②　教育長表彰対象生徒を５０％以上とする。	B C	C		①　最終的には年度末に評価
海洋科学科	（1年生） 専門学習への動機付けを図る。	①　科学科のガイダンスを年3回以上実施する。	C	C	C	①　ガイダンスの実施は、1学年部の協力によるところが大きい。
	（2年生） 専門学習への動機付けを図る。 資格取得の増加を図る。	①　専門系施設への訪問･見学を等を年8回以上実施する。	B	C		①　訪問･見学は8回実施
	（3年生） 大学進学希望生徒の動機付けと希望進路達成を図る。	①　教育長表彰者を、20人以上とする。 ②　関連大学合格を10人以上達成する。	D C	D		①　教育長表彰１６人 ②　関連大学9名
海洋工学科	（航海船舶コース） 学力向上フロンティア事業に係るコースとしての取組を完成させる。	①　大学･企業との連携 ②　海技士（航海）筆記試験･小型船舶操縦士の合格者増 ③　塩の製造方法の確立	C	C	C	①　海技士筆記試験で結果が出なかった。(四級2名) ②　塩の製造･販売について、所定の届出をし、実施の計画をしている。
	（海洋技術コース） 学力向上フロンティア事業に関連付け、土木施工、作業潜水に必要とされる知識と技術を習得させる。	①　希望進路を８０％以上実現させる。 ②　潜水士6名合格させる。 ③　総合実習やﾀﾞｲﾋﾞﾝｸﾞで微細な事故ゼロにする。	B C A	B		①　希望進路内定率　１１名／１３名＝８５％ ②　潜水士4名合格、実習で事故は全くなかった。 ③　フロンティア事業（ヒトデ堆肥化）は、継続予定である。
海洋資源科	生物飼育や海洋環境、水産生物の利用に関する基礎的･基本的な知識と技術を学力向上フロンティア事業とも関連付け習得させる。	（栽培環境コース） ①　新魚種（トラフグ）の養殖を軌道にのせる。 ②　栽培検定の受検率と合格率を上げる。	C C	C	B	①　トラフグの生残率は６０％であった。 ②　栽培検定合格率は1級３０％、2級結果待ち
		（食品経済コース） ①　卒業後の即戦力を目指し、実践的な資格を習得させる。 ②　新しい実習製品の開発を目指す。	A A	A		①　食品技能検定４７名（＋３８名未実施） ②　新製品１５品目開発
事務部	学習環境の整備と安心･安全の確保に努める。	①　学習環境にかかわる定期点検を各分掌と連携を取りながら実し、改善箇所の早期発見･早期改修に努める。（年1回） ②　来校者の確認については複数で行い、不審者の侵入を阻止する。	A B	B	B	①　ガス検知については保健部が実施。その結果ダニの死骸が多かった教室及び準備室については担当教諭と事務部が薫蒸及び清掃を行った。 ②　水質検査については保健部と事務部がそれぞれ実施。 ③　照度検査については、事務部が実施。 ④　来校者の確認は９５％以上達成できたが、時間待ちの来校者を1人にし、１時所在が確認できないことがあった。 ⑤　昨年度の課題であった時間外の保護者者召喚については、担当教諭から事前に連絡が入るようになり、格段に改善された。
	施設、設備の安全管理の徹底に努める。	各学期1回、施設･設備の安全点検を行い危険個所及び改善箇所の早期発見･早期改修に努める。特に老朽化や塩害によるトラブルを未然に防ぐため、徹底した点検を行う。	A	A		①　１学期３回、２学期４回、３学期２回合計９回実施した。 ②　突発的な故障についてはその都度迅速に対応できた。 ③　長年の懸案事項であった合併処理浄化槽の取替工事が完了したが、まだ、改修の必要な箇所があり、今後の課題である。
	関係分掌との連絡調整を行い目的達成のめ連携を深める。	各学期1回、実習船「みずなぎ」や、各分掌の適正かつ効率的な予算の執行及び収入等について連絡調整を行い、学力向上フロンティア校支援事業等それぞれの目的達成に向けて連携を深める。	D	D		①　担当者間での打合せについては、個別に行っているが、連絡調整の会議としてはみずなぎドックオーダー調整会及びＩＴ推進会議の２つに参加した。 ②　学力向上フロンティア校支援事業の経費と従来の実習経費との区別がしづらく、事務部も計画段階から参加すべきであると痛感した。
寮務部	規律正しい生活を高める。	反省文がでないように寮生活の手引き指導を徹底	B	B	B	①　生徒の健康状態を含め、教員どうしの連携が必要であった。
	舎監による指導体制の一致を図る。	職員会議後舎監会議を開き情報の共有化を図る。	B	B		①　舎監ルールに対する認識、運用状況をその都度確認していく必要がある。
実習船 「みずなぎ」	安心、安全に実習運航できる様に努める。	①　生徒乗船中は、毎日生徒、職員の体調チェックを行なう。 ②　航海実習中は船内避難訓練の一層の徹底を図る。	A A	A	A	①　泊を伴う航海8回の中で8回行った。 ②　ナホトカ･神戸航海で退船避難訓練を行った。 ③　海洋センターとの連携によりクラゲ網等の調査が実施できた。
	実習船職員と教員、学校との連携を深める。	①　関係教職員と実習前の打合せを行なう。 ②　実習終了後は反省会を行い次回計画の立案に活かす。	A A	A		①　9航海で9回　　１００％ ②　9航海で9回　　１００％

研修計画	生徒指導部	やる気を育てる講演会	様々な分野で活躍した人物を招き、いろいろな生き方から自分を見つめ直す機会にしたい。	B	B	B	① 井上謙二選手の講演は好評であった。生徒も自信がつき、多くの質問があった。
		服装のＴＰＯについて （制服業者社長の講演）	学校制服業者　社長　清札義行　様の講演 （制服の着こなしから、社会のマナーまで幅広く社会人の話を聞く機会にしたい。）	B	B		② この時期に定着して行うことで成果がある。1年入学時に、生活指導の基本として、指導していることの大切さを認識させる。
	総務企画部	夏季研修＜8月実施＞	「学科改編の成果と課題・海洋高校の将来構想について」	C	C	C	① 実施できたが、教育活動への反映が課題
		講演会（日本船長協会）	「船長と海洋の魅力について」	B	B		① 実施できた。
		講演会（京都精華大学教授）	「地域で期待される海洋高校を目指す」	D	D		① 実施できず。（予算措置に課題）
		意見交流（京都府漁業士会と共修）	「海洋高校の専門教育について」	C	C		① 意見交流会で実施
	教務部	教科指導力の向上を図る。	研究授業週間を設定し、授業公開・研究授業の実施	A	A	A	① 教務部の欄と同じ
	海洋科学科	講演会（東京海洋大学教授）	「海洋高生に期待すること」	C	C	C	① 実施できた。
	進路指導部	第1回「今年度の進路指導について」（7月） 第2回「平成１９年度の進路指導のまとめ」（3月）	① ビデオプロジェクター等を活用し、理解が深まるよう工夫する。 ② ワークショップ形式による研修形態で実施する。（第2回） ③ 日常的なものも含め、教員の進路に関する指導力を高める内容を含める。	A D B	A	A	① 工夫できた。 ② 2回実施できたが、ワークｼｮｯﾌﾟ形式は実施できず。 ③ 指導力向上の内容で実施できた。
	保健部	教育相談について	スクールカウンセラーによる事例報告	B	B	B	① 今後も継続した研修が必要である。
		特別支援教育について	サポートチームによる実践研修	B	B		① 本校の実情に則して研修を深めることができた。
	国際教育	世界の子供達の現実を知り、今後の地球人としての生き方を考える機会とする。	専門機構の講師による講演会を実施する。 (社会人講師活用事業)	A	A	A	① 本校初の国際教育講演会を実施 ② ７９%の大変よかった、６３%の大変参考になった等、ほぼ１００%の肯定評価を得た。3年に1度の定期実施が今後の課題。

次年度への 改善の方向性	1 生徒指導に関しては、引き続き妥協のない揺るぎない姿勢を堅持し、組織としての指導を一層強化することにより、規律ある学校生活の確保に努める。 2 生徒募集については、引き続き丹後地区に強く働きかけていくとともに、中丹地区での学校説明会を依頼する。 3 老朽化や海水による塩害等によるトラブルを常に意識し、安心・安全の学校生活の観点から施設・設備の点検を継続する。 4 進路指導において、学年による学力等の差を安定したレベルに維持できる指導体制を構築する。また、研究活動や生徒の小論文指導において専門学科との連携をさらに強化し、生徒の専門性を深化させるとともにモチベーションの向上を図る。 5 学科改編の趣旨に沿った各学科・コースの教育内容の充実、特に集中実習のあり方については、今後も検討していく。